

令和元年6月20日現在

機関番号：12103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04481

研究課題名(和文)聴覚障害児の英語指導のためのCAN-DOリストの作成

研究課題名(英文)Development of CAN-DO List for Teaching English for Hearing Impaired Children

研究代表者

松藤 みどり (Matsufuji, Midori)

筑波技術大学・障害者高等教育研究支援センター・教授

研究者番号：30271464

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：三年の期間を一年延長して、四年にわたって聴覚障害者に特化したCAN-DOリストの作成に取り組んだ。その間に小学校の英語の教科化、全国学力テストの中学英語(実施は2019年4月)、高等学校基礎学力テストの導入(実施時期は未定)大学入試の新テストの導入(実施は2020年度)などが次々に登場した。研究協力者として聴覚特別支援学校の教員もしくはその経験者に集まってもらい、聴覚障害者特有の課題について検討した。最終年度には校種別のCAN-DOリストの報告書を作成し関係者に配布した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

報告書は小学部、中学部、高等部の英語を通覧することができ、聴覚特別支援学校に新たに赴任した英語担当教員の手引書としての役割を果たす。また、研究期間の一年目に長期研修をした協力者による通常の小学校に学ぶ聴覚障害児の外国語活動に関する「手だて集」にはALTが理解できるよう英文も添えられ、通常の小学校教員の参考にもなる。

こうした知識が一般化されれば、いわゆる4技能のうちの「聞く」「話す」ことをどう評価すべきか、とりわけ入学試験や資格試験においてどうすべきかを検討する一助になると考える。

研究成果の概要(英文)：We extended the period of three years by one year and worked on creating a CAN-DO list specialized for the hearing impaired for four years. In the meanwhile, the introduction of English subjects in elementary school, junior high school English of national academic ability test (conducted in April 2019), introduction of high school basic academic ability test (conducted at the time of implementation) Etc appeared one after another. As a research collaborator, the teachers of the special needs school for the hearing or their experienced persons gathered, and issues specific to the hearing impaired were examined. In the final year, we prepared a CAN-DO list report for each school and distributed it to the relevant parties.

研究分野：聴覚障害英語教育

キーワード：CAN-DOリスト 英語 外国語活動 4技能 聴覚障害 ALT

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まると、文部科学省は「グローバル化に対応した外国語教育改革実施計画」を打ち出し、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を2018年までに図ることにしている。一般の小中学校で学ぶ聴覚障害児はますます置き去りにされてゆくことが懸念され、何らかの対策を講じる必要がある。そこで、一般の小中学校で学ぶ聴覚障害生徒に外国語活動および英語を指導するさいの目安を示す参考資料およびそれに付随する教材を作成して公開する。

1. 児童生徒のためのCAN-D0リスト

2. 日本人教員のためのCAN-D0リスト

3. ALTのためのCAN-D0 リスト

特別支援学校の英語教員ならびに通級指導を担当している教員を研究協力者とし、Web上に資料や教材を掲載する。

2. 研究の目的

聴覚特別支援学校の英語教員の児童生徒に対する指導のノウハウや教材を、メールによる情報交換や研究協議会で収集する。CEFR-J (Common European Framework of Reference -Japan:ヨーロッパ共通言語参照枠の日本版)について聴覚特別支援学校の英語教員の勉強会を開催し、理解を深める。収集したノウハウや教材をCEFR-Jの形式に添って整理する。

(参考文献: CEFR ガイドブック 投野由紀夫 大修館書店2014年)

聴覚特別支援学校の英語教員から収集したノウハウや教材をCEFR-Jに照らし合わせて整理する。CEFRを聴覚障害生徒の母国語または外国語習得の指標としている国があるかどうか、あるとすればどのような観点で導入しているかを調査するために、アテネで開催される国際聾教育会議 (the 22nd International Congress on the Education of the Deaf (ICED 2015))に出席し、情報を集める。

前年度に整理したノウハウや教材を聴覚障害児童生徒向けのCAN-D0リストとして聴覚障害英語教育研究会(会長 筑波技術大学 須藤正彦 <http://deafeng2011.blog.fc2.com>)等で発表し、現場の意見を聞いて更に改良を重ねる。

同じアジア圏で英語教育に力を入れている韓国の聾学校や聴覚障害学生を多数受け入れている聾学校を視察し、聴覚障害児への外国語指導の実態やCEFRの導入について調査し、教員向けCAN-D0リスト、ALT向けCAN-D0リストの作成の参考にする。

WEBページで成果物が参照できるようにし、簡潔なパンフレットを印刷媒体で作成して、聴覚障害児が学んでいる一般の小中学校の英語担当者に配布する。

全日本聾教育研究会、日本特殊教育学会、聴覚障害英語教育研究会などで成果発表する。

WEBページで成果物が参照できるようにし、簡潔なパンフレットを印刷媒体で作成して、聴覚障害児が学んでいる一般の小中学校の英語担当者に配布する。

全日本聾教育研究会、日本特殊教育学会、聴覚障害英語教育研究会などで成果発表する。

3. 研究の方法

小学校と小学部については、元千葉聾学校(現大網白里特別支援学校)の村上理恵子が小学校と聾学校小学部に分けた学年別のCAN-D0 リストを作成し、ALTとの活動に関しても提案した。旭川聾学校(元筑波大学附属聴覚特別支援学校)の高田史子が聾学校小学部の外国語活動・外国語についてQ&Aの形でまとめ、小学部5年生を対象とした実際の授業の指導案も示した。ALTの参考になるように英語による説明もつけてある。中学部については、熊本聾学校の山田京子が指

導者向けの詳細なCAN-DO リストと、そのリストに対応したチェックリスト形式の生徒向けリストを提案した。筑波大学聴覚特別支援学校の広瀬由美が長年の研究に基づいて、音声的な側面に関わる指導について詳細な報告と考察をした。高等部は学力差が出てくる時期でもあり、職業選択や進路に応じた指導が必要ある。

高等部に長年勤務したあと、千葉聾学校(元筑波大学聴覚特別支援学校)の鈴木初美と、都立中央聾学校の牛嶋文が、長年の経験と実績に基づいた進学希望者向きの指導についてまとめた。大宮ろう学園の対馬隆司と元熊本聾学校(現黒石原支援学校)の井芹孝恵が職業科に在籍する生徒を対象としたCAN-DO リストの教師用、生徒用を作成した。最後に、自身が聴覚に障害があり、神奈川県立平塚聾学校を経て、川崎市立聾学校に勤務している秋山奈巳が、当事者視点からCAN-DOリストへ提言を執筆した。

報告書は印刷体で100部発行し、WEB ページでも閲覧できるようにする予定である。聾学校(聴覚特別支援学校)に勤務することになった英語の教員や、通常校で聴覚に障害をもつ生徒の指導を担当することになった英語や外国語活動を担当する教員の参考となれば幸いである。

4. 研究成果

三年の期間を一年延長して、四年にわたって聴覚障害者に特化したCAN-DO リストの作成に取り組んだ。その間に小学校の英語の教科化、全国学力テストの中学英語(実施は2019年4月)、高等学校基礎学力テストの導入(実施時期は未定)大学入試の新テストの導入(実施は2020年度)などが次々に登場した。研究協力者として聴覚特別支援学校の教員もしくはその経験者に集ってもらい、聴覚障害者特有の課題について検討した。最終年度には校種別のCAN-DO リストの報告書を作成し関係者に配布した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

松藤みどり、聴覚・視覚に障害のある学習者への英語教育[1] 大学の場合(聴覚)、大修館「英語教育」、査読無、Vol.65 No.1、49

松藤みどり、聴覚・視覚に障害のある学習者への英語教育[2] 高等学校の場合(聴覚)大修館「英語教育」Vol.65, No.2,49

松藤みどり、聴覚・視覚に障害のある学習者への英語教育[3] 中学校の場合(聴覚)大修館「英語教育」Vol.65, No.3、49

松藤みどり、聴覚・視覚に障害のある学習者への英語教育[4] 小学校の場合(聴覚)大修館「英語教育」Vol.65, No.4、49

松藤みどり、公立高等学校入学試験における英語および国語の聴覚障害者に対する措置 筑波大学テクノレポート Vol.24 No2

〔学会発表〕(計2件)

松藤みどり、聴覚特別支援学校等における英語教育の現状と課題 平成27年度「特別支援学校ネットワーク構築事業」に関わる第2回合同研修会(招待講演)2016年度

松藤みどり、公立高校入試における聴覚障害対応の変遷 英語のリスニングを中心に 日本特殊教育学会第55回大会2017

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：松藤みどり

ローマ字氏名：Matsufuji Midori

所属研究機関名：筑波技術大学

部局名：障害者高等教育研究支援センター

職名：教授

研究者番号（8桁）：15500647

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：大塚和彦

ローマ字氏名：Kasuhiko Otsuka

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。